

## SB 32、AWGハイライト

2010年5月31日月曜日

実施に関する補助機関 (SBI) および科学的技術的助言に関する補助機関 (SBSTA) の第32回会合は、月曜日午前中と午後、開会プレナリーを開催した。SBIは、資金メカニズム、キャパシティビルディング、技術移転および国別報告書の問題を議論した。SBSTAは、特に途上国における非森林化および森林劣化による排出量の削減 (REDD)、影響、適応、脆弱性に関するナイロビ作業計画 (NWP)、および手法論問題について議論した。

### SBSTA

**作業構成上の問題：**SBSTA議長のMama Konaté (マリ) が会合の開会を宣言した。締約国は、議題書を選択し、作業構成書 (FCCC/SBSTA/2010/1) についても合意した。

**開会ステートメント：**イエメンは、G-77/中国の立場で発言し、技術移転の進展を図ることの重要性を強調し、NWPに関する進捗報告書に期待すると述べた。スペインは欧州連合 (EU) の立場で発言し、次の問題に関する進展の可能性に注目した；NWP、研究および科学面を活用した情報の提供、REDD、技術移転、クリーン開発メカニズム (CDM) における標準化ベースライン。グレナダは小島嶼諸国連合 (AOSIS) の立場で発言し、結論書草案を提出する前に第1回のコンタクトグループ会合を開催するよう要請し、技術移転に関するSBSTA・SBI合同会合の開催を支持した。コンゴ民主共和国はアフリカグループの立場で発言し、適応計画および実施方法に注目するよう求め、適応活動実施に関する作業プログラムおよび適応に関するアドホック技術グループを提案し、これに特定の委任条件、期限、固定された費用を持たせることを求めた。

パナマは、コロンビア、チリ、メキシコ、グアテマラ、ペルー、ウルグアイ、ドミニカ共和国に代わり発言し、REDDでの進展を図ることの重要性を強調し、これには全ての途上国の参加も含めると述べた。同代表は、技術移転およびNWPに関し、具体的な活動の実施に動くよう求めた。オーストラリアがアンブレラグループの立場で発言し、SBSTAにおける情報ならびに科学的技術的問題に関する決定書の進め方を検討するよう提案した。同代表は、AWGsの暫定的一時的な特性を指摘し、締約国が合意に達したものの進展を図るため、作業プログラムの作成を今会合から開始するよう求めた。

NWPに関し、ボリビアは、適応コストおよび便益を見極める研究が必要であると強調し、その研究成果を望ましい温室効果ガス (GHG) 安定化レベルという観点から検討する必要があると強調した。また同代表は、

森林に関する議論では、先住民の懸念および参加に配慮するよう求めた。

レソトは後進途上国（LDCs）の立場で発言し、LDCsに関する研究および組織的な観測に関する決定書を求め、LDC作業プログラムの検討を再開することで、制度の強化を図るよう求めた。同代表は、NWP、REDDおよび技術移転に関し具体的な行動をとる必要性を強調した。

**NWP:** 事務局は、この議題項目（FCCC/SBSTA/2010/INF.2; FCCC/SBSTA/2010/2-3 and 5）を提起した。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、影響および気候分析のデータおよびシナリオサポートに関するタスクグループ（TGICA）がNWPの作業を継続支援すると指摘し、第5次報告書（AR5）では特に、影響、対応戦略、適応のニーズおよび制約条件に関し、詳細に議論すると指摘した。

日本は、適応に関する理解の累積的な進展に基づきNWPの延長を図るよう提案した。キリバスはAOSISの立場で発言し、小島嶼発展途上国（SIDS）との連結性の薄さを考慮し情報普及の必要性を強調し、資金メカニズムを効率化、簡素化する必要があると指摘した。同代表は、損失および被害について保険で対応するメカニズムを提案し、LDCsおよびSIDSにとり適応プログラムに関するモニタリング、報告、検証（MRV）は重荷であると指摘した。

ニカラグアは、適応コストの不確実性に注目し、市場の脆弱な諸国救済能力を疑問視した。スイスおよび世界気象機関（WMO）は、気候サービスに関する世界枠組に対するNWPのインプットに注目した。

Kishan Kumar Singh（トリニダード・トバゴ）とDon Lemmen（カナダ）が非公式協議を開催する。

**技術移転:** 事務局はこの議題項目（FCCC/SB/2010/INF.1 and 3-4）を提出した。SBSTA議長のKonatéは、Bruce Wilson（オーストラリア）およびNagmeldin Goutbi Elhassan（スーダン）が技術移転に関する専門家グループ（EGTT）のそれぞれ議長および副議長に任命されたと報告した。EGTT副議長のElhassanは、EGTTの2010-2011年度作業プログラムの更新および実施など、EGTTでの作業について報告した。

Carlos Fuller（ベリーズ）およびRonald Schillemans（オランダ）がSBSTA/SBI合同コンタクトグループの共同議長を務める。

**REDD:** 事務局はこの議題項目を提起した。SBSTA議長のKonatéは、排出量の推計に関するIPCCのガイダンスと指針およびキャパシティビルディングとの協調強化という目標について説明した。

中央アフリカ共和国はCOMMISSION DES FORÊTS D'AFRIQUE CENTRALE（COMIFAC：中央アフリカ森林委員会）の立場で発言し、MRVおよび資金調達に関する方法論の議論を提案した。ボリビアとニカラグアは、地元住民の権利および参加の重要性を強調した。パプアニューギニアとガイアナは、REDDに関する政治的議論はAWG-LCAに任せるべきであるとし、SBSTAはキャパシティビルディングと手法論問題を検討すべきだと強調した。気候行動ネットワークは環境NGOsの立場で発言し、代表団中の科学者を「議長の友」

グループとして活用するよう議長に奨めた。

Audun Rosland（ノルウェー）が非公式に協議する。

**研究および組織的観測：**事務局はこの議題項目（FCCC/SBSTA/2010/MISC.s 4 and 6）を提起した。IPCCは、AR5に関する作業に焦点を当て、IPCCプロセスの信頼性及び透明性を確保すべく、InterAcademy Council（学際委員会）がIPCCプロセスおよび手順に関する最終報告書を8月にとりまとめる予定であると締約国に告げた。タイとタジキスタンは、研究能力強化の必要性を強調した。EUは、交渉プロセスに指針を与える上での科学の重要性を強調した。

Sergio Castellari（イタリア）とDavid Lesolle（ボツワナ）が非公式協議を行う。

**手法論問題（条約）：国際航空輸送および海上輸送からの排出量：**事務局はこの議題項目（FCCC/SBSTA/2010/MISC.5）を提起した。国際海事機関（IMO）は、加盟国がエネルギー効率レベルの下限に関する一連の強力な基準を作成したと指摘し、同機関には、このような基準の効果的な実施に向けた優れた執行メカニズム、MRVおよび方法論が存在すると指摘した。また同代表は、これらの規制を補う市場ベースメカニズムの作成も進められていると強調した。国際民間航空機関（ICAO）は、運航上の変更、市場ベースの措置、途上国への支援、技術移転、ならびに航空燃料消費量の報告において進展があったと強調した。

クウェート、カタール、サウジアラビア、ナイジェリア、日本は、ICAOおよびIMOはバンカー燃料の分野の技術的専門家でもあることから、これらの問題を扱う最善の立場と確信していると述べた。中国、ウガンダ、ブラジル、インド、アルゼンチンは、手法論問題ならびにICAOおよびIMOへの指針を議論するコンタクトグループの設置を支持した。

議長のKonatéはこの問題に関する結論書草案を作成する。

**附属書I諸国年次目録の報告作成ガイドラインの改定：**事務局は、本議題項目（FCCC/SBSTA/2010/MISC.1; FCCC/SBSTA/2010/4; and FCCC/SBSTA/2010/INF.5）を提起した。IPCCの国別温室効果ガスインベントリに関するタスクフォースは、その作業内容について報告した。ノルウェーは、間接排出の報告を義務付けるべきと提案した。

Riitta Pipatti（フィンランド）とNagmeldin Goutbi Elhassan（スーダン）が非公式協議の進行役を務める。

**手法論問題（議定書）：HCFC-22/HFC-23：**Samuel Adejuwon（ナイジェリア）が結論書草案作成のための非公式協議を開催する。

**CDMにおける炭素回収貯留（CCS）：**事務局はこの議題項目（FCCC/SBSTA/2010/MISC.2 and Add.1）を提起した。サウジアラビア、ノルウェー、オーストラリア、クウェート、日本、エジプト、カタールは、

CDMにCCSを含める方法に関する決定書草案の検討を支持すると表明した。ベニンはLDCsの立場で発言し、CDMにCCSを含めることへの懸念を表明し、バルバドス、ジャマイカ、ミクロネシア連邦、ブラジル、ザンビア、トリニダード・トバゴもこれを支持した。バルバドスは、コンタクトグループ結成の意義に疑問を呈したが、サウジアラビア、ボツワナ、パプアニューギニア、日本、インドネシア、クウェートは、今回の会合でのグループ結成を支持した。

Pedro Martins Barata（ポルトガル）とAndrea García Guerrero（コロンビア）が非公式協議を開催する。

**CDMにおける標準化ベースライン：**事務局は本議題項目（FCCC/SBSTA/2010/MISC.3/Rev.1）を提起した。EUは、CDMでの確実性、予測可能性、透明性の確保における標準化ベースラインの重要性を強調した。日本、ベニン、南アフリカは、標準化ベースラインの考えを支持し、南アフリカは、既存の追加性ツールと合わせて利用すべきだと付け加えた。スイスとアルゼンチンはこの問題の議論を支持し、ニカラグアはCDMに関し懸念を表明した。

Peer Stiansen（ノルウェー）が非公式協議を開催する。

**枯渇林地における再植林活動をCDMの新規植林・再植林活動として含めることの影響：**事務局はこの議題項目を提起した。サウジアラビアとニカラグアは、枯渇林地における再植林をCDMに含めることに反対した。ブルキナファソとベニンは、この問題を検討する前に、詳細の追加情報を求めることと、精密な基準を確立する必要があると指摘した。ブラジル、インドネシア、トーゴ、インドは、この問題に関する協議開催を支持したが、サウジアラビアは反対した。

José Eduardo Sanhueza（チリ）が非公式協議を開催する。

**GHGsのCO2換算を求める共通計算方法：**Mikhail Gytarsky（ロシア）が非公式に協議する。

**気候変動緩和の科学的、技術的、社会経済的側面：**SBSTA議長のKonatéは、緩和に関する行動の強化についての交渉が他の機関で進められており、これはこの問題に関するSBSTAでの今後の協議に影響を与える可能性があるとして指摘した。

ベリーズはAOSISの立場で発言し、世界の気温上昇を1.5℃以内で抑える方法およびコストならびにこの目標達成に失敗した場合のコストに関し、技術文書を作成しSBSTA 33の検討にかけるよう提案した。

Kunihiko Shimada（日本）とFredrick Kossam（マラウイ）が非公式に協議する。

**関連の国際機関との協力：**UNFCCC事務局長のYvo de Boerは、国連機関および他の組織との協力関係に関し報告し、今後の報告にはビジネス部門との協力も含めると指摘した。生物多様性条約（CBD）は、ケニアのナイロビで5月に開催されたCBD SBSTA会議での気候変動関連の成果について報告し、生物多様性に関する気候変動の影響、生態系ベースの適応および緩和手法に焦点を当てた。SBSTA議長のKonatéは、結論書

草案を作成する。

## SBI

**作業構成上の問題：**SBI議長のRobert Owen-Jones（オーストラリア）は、会合の開会を宣言した。同議長は、非附属書I国別報告書に含まれるべき情報に関する小項目について議長の方で非公式に協議する間、現在の議定書を暫定的に用い、午後の会合で議題書の採択を図ることを提案し、締約国もこれに同意した。イエメンはG-77/中国の立場で発言し、この項目を議題に含めることについては合意ができていないと強調した。午後、締約国は非附属書I国別報告書に含まれる情報に関する小項目を保留にし、議題書 (FCCC/SBI/2010/1) を採択した。

**開会ステートメント：**スペインはEUの立場で発言し、地球環境ファシリティー（GEF）の第5次資金補填および、適応基金理事会での進展についても歓迎の意を表した。イエメンはG-77/中国の立場で発言し、非附属書I国別報告書に対する資金援助技術援助を受ける上での問題に焦点を当てた。同代表は、資金メカニズムの第4回レビューを強調し、LDC基金（LDCF）および気候変動特別基金（SCCF）はまだ十分発展しておらず、さらなる改善が求められると発言した。また同代表は、カンクン会議のポスターとロゴにはCOP 16とCOP/MOP 6の両方への言及を入れるべきであり、両方を同等に扱うべきだと述べた。

オーストラリアはアンプレラグループの立場で発言し、国別報告書の重要性、報告書の改善と情報の検討、技術開発と移転、政府間会合の構成を強調した。

ソロモン諸島はAOSISの立場で発言し、SBIとAWG-LCAでの作業の重複を避ける必要があると強調した。同代表は、キャパシティビルディングについて定期的にモニタリングし評価することを提案し、実績指標の必要性を強調し、適応基金の更なる強化を支持した。レソトはLDCsの立場で発言し、LDC作業プログラムの全面的な実施が必要であると強調し、LDCFには国内適応行動プログラム（NAPAs）の完全な実施をするだけの適切な資金がないことを嘆き、共同出資要項に反対した。

コンゴ民主共和国はアフリカグループの立場で発言し、国別報告書の重要性を強調した。同代表は、SCCFの運用をただちに開始するよう求め、適応基金への直接アクセス条項の実施支援を求めた。また同代表は、先進国のキャパシティビルディング約束の実施状況を示す指標を求めた。

ボリビアは、2010年4月、ボリビアのCochabambaで開催された気候変動に関する世界人民会議の成果について説明した。同代表は、先進国でのGHG排出量増加に懸念を表明し、市場メカニズムは気候変動に十分対応していないと強調した。

サウジアラビアは、決定書1/CP.10（ブエノスアイレス作業計画）ならびに議定書3.14条（対応措置の悪影響と影響）の実施における進展を求めた。

コロンビアはチリ、パナマ、ドミニカ共和国、ペルーに代わり発言し、既存の資金メカニズムの効果的な利用、ならびに国別報告書の強化と能力向上の必要性を強調した。

**附属書I国別報告書とGHG目録データ：1990-2007の期間における国別温室効果ガス（GHG）目録データについての報告：**事務局はこの議題項目（FCCC/SBI/2009/12）を提起した。ボリビアは、先進国に対し、排出量の「劇的な」削減を求めた。

**第5回国別報告書の提出およびレビュー状況：**事務局はこの議題項目（FCCC/SBI/2010/INF.1）を提起した。

**第6回国別報告書の提出時期：**事務局はこの議題項目（FCCC/SBI/2009/INF.9）を提起した。

William Agyemang-Bonsu（ガーナ）とMakio Miyagawa（日本）は、附属書I国別報告書関連の議題項目に関するコンタクトグループの共同議長を務める。

**議定書附属書B締約国の年次算定とりまとめ報告書：**事務局は、本議題項目（FCCC/KP/CMP/2009/15 and Add.1）を提起した。ボリビアは、附属書B締約国の市場メカニズム過剰利用に懸念を表明した。

William Agyemang-Bonsu（ガーナ）とMakio Miyagawa（日本）がコンタクトグループの共同議長を務める。

**非附属書I国別報告書：非附属書I国別報告書に関する専門家諮問グループ（CGE）：**事務局は本議題項目（FCCC/SBI/2010/INF.2）を提起した。CGE議長のEric Mugurusi（タンザニア）は、COP 15におけるCGE再結成以降の作業状況について報告した。ブラジルはG-77/中国の立場で発言し、CGEの結成に満足の意を表する一方、CGE不在で失われた時間は取り戻せないと嘆いた。タイは、非附属書I国別報告書の質向上にはCGEの作業が重要であると強調した。東チモールは、キャパシティビルディングの必要性を強調した。

**条約12.5条（国別報告書の頻度）の更なる実施：**事務局は、SBI 31において、この問題をSBI 32に回すことで合意したと指摘した。ブラジルはG-77/中国の立場で発言し、共通するが差異ある責任の原則を念頭に入れる必要があると強調し、非附属書I諸国は国別報告書に関して附属書I諸国以上に厳しい義務を負うべきでないとして述べた。同代表は、資金援助および技術支援の議題項目とのつながりを強調し、タイは、非附属書I国別報告書の頻度については資源の利用可能性を考慮すべきだと強調した。

**資金援助と技術支援：**事務局は本議題項目（FCCC/SBI/2010/INF.3）を提起し、GEFは、非附属書I国別報告書に対する資金援助について情報を提供した。（FCCC/SBI/2009/INF.11 and FCCC/SBI/2010/INF.3）

ブラジルはG-77/中国の立場で発言し、GEFから資金供与を受けるには多くの制約があると述べ、改善はされているが、GEFは依然として途上国の懸念に「対応が良い」とは言えないと指摘した。サウジアラビアは、GEFが一部の非附属書I諸国、とりわけ産油国に対し国別報告書向けの資金援助を停止するとの決定をし

たことに驚きを表明し、本会合でこの問題の解決を図る必要があると強調し、クウェート、イラン、オマーンもこれを支持した。シェラレオネは、国別報告書完成の遅れは、実施機関での困難が原因である場合が多いと発言し、GEFと実施機関との連絡緊密化を求め、マラウィ、東チモール、アルジェリアもこれを支持した。米国は、資金へのアクセスで問題に直面していることに同情の意を表し、各国が資金を利用できないでいるなら、提供した資金がどこにいつているのか「極めて憂慮する」事態だと述べた。

William Agyemang-Bonsu（ガーナ）とMakio Miyagawa（日本）が、非附属書I国別報告書関連の議題項目に関するコンタクトグループの共同議長を務める。

**資金メカニズム：資金メカニズムの第4回レビュー：**事務局は、本議題項目（FCCC/SBI/2009/MISC.10 and Add.1）を提起した。中国は、GEFの第5回資金補填に満足の意を表し、資金供与国に対して速やかな支払いを求め、GEFに対してはプロジェクトの準備および承認プロセスの能率化を図るよう求めた。ナイジェリア、ガーナ、モルディブは、気候変動対応のための投資および資金の流れの研究に参加していると強調し、そのフォローアップを求めた。

**GEF報告書：**事務局は、本議題項目（FCCC/CP/2009/9）を提起した。アンティグア・バーブーダはAOSISの立場で発言し、GEFの第5回資金補填への感謝を表明し、GEFの資金アクセス改善の必要性を指摘し、資金に関する国の所有権の必要性を強調し、資金調達への民間部門の参加に懸念を示した。

**気候変動特別基金（SCCF）の評価：**事務局は本議題項目を提起した。

Zaheer Fakir（南アフリカ）とSandrine de Guio（フランス）がコンタクトグループの共同議長を務める。

**キャパシティビルディング（条約）：**事務局は本議題項目（FCCC/SBI/2009/4, 5 and 10, FCCC/SBI/2009/MISCs.1, 2, 8 and 12）を提起した。タンザニアはG-77/中国の立場で発言し、キャパシティビルディング枠組実施に対する先進国の支援不足に対し懸念を表明した。シェラレオネは、LDC気候変動窓口の強化を求めた。

Phillip Gwage（ウガンダ）とMarie Jaudet（フランス）がコンタクトグループの共同議長を務める。

**キャパシティビルディング（議定書）：**事務局は、本議題項目（FCCC/SBI/2009/4-5; FCCC/SBI/2009/MISCs 1-2, 8 and 12; FCCC/KP/CMP/2009/16 and FCCC/SBI/2009/10）を提起した。タンザニアは、ほんの数カ国の途上国がCDMの恩恵を受けているにすぎないと嘆いた。

Phillip Gwage（ウガンダ）とMarie Jaudet（フランス）がコンタクトグループの共同議長を務める。

**条約6条（教育、訓練、啓発）：**事務局は、本議題項目（FCCC/SBI/2010/2, 3 and 9）を提起した。ドミニカ共和国はニューデリー作業計画を延長し、改善すべきだと強調した。350.ORGは、条約6条の実施においてはNGOsおよび若者の役割を認めるよう求めた。LIFE E.V.は、男性的なもの、技術、排出量の間には密接なつながりがあり、伝統的な男性的特性が、多くのエネルギーを利用するステータスを支えていると強調した。

Liana Bratasida (インドネシア) がコンタクトグループの議長を務める。

**適応基金のレビュー：**事務局は本議題項目 (FCCC/SBI/2010/MISC.2 and FCCC/SBI/2010/7) を提起した。フィリピンはG-77/中国の立場で発言し、直接アクセス手順を用いる適応基金の更なる運用について期待感を表明した。スペインはEUの立場で発言し、この基金にEUが4500万ユーロ寄贈したことを強調した。バングラデシュはLDCsの立場で発言し、新たなそして追加の資金源、直接で容易なアクセス、国内実施機関設置に対する支援を求めた。モルディブはAOSISの立場で発言し、適応基金が適応の早期開始資金を提供する主要組織となるよう希望すると述べた。東チモールは、適応基金理事会が各国の立場をバランスよく公平に代表することを求めた。ツバルは、基金のサービス利用コストの高さに懸念を表明し、暫定事務局および理事の役割の評価基準を求めた。スイスは、運用上の独立性とGEF事務局との制度上の関係のバランスがとれていると指摘した。ボリビアは、先進国がその歴史的責任を認め、その公共資金を提供すべきだと強調した。日本は、資金のレビューはAWG-LCAでの議論に資料を提供できる可能性があるとして指摘した。シェラレオネは、これまでのところ気候変動基金はバランスの取れた形で利用されていないと嘆いた。

コンタクトグループの共同議長は、Ruleta Camacho (アンティグア・バーブーダ) とJukka Uosukainen (フィンランド) が務める。

**条約4.8条および4.9条に関係する問題：決定書1/CP.10 (ブエノスアイレス作業計画) の実施：**事務局は本議題項目 (FCCC/SBI/2010/MISC.1) を提起した。SBI 議長のOwen-Jonesは、noted that SBI 30がSBI議長に本件に関する決定書草案作成を要請したと指摘し、文書の作成は終わり、第1回コンタクトグループ会合で提供できると締約国に伝えた。

バルバドスはAOSISの立場で発言し、特に、SIDS作業計画を設置し、NAPAsを検討し、資金源にアクセスするための国内の制度アレンジへの支援を求めた。

SBI副議長のSamuel Ortiz Basualdo (アルゼンチン) がコンタクトグループの議長を務める。

**LDCs：**事務局は本議題項目 (FCCC/SBI/2010/5) を提起した。議長のFred Onduri (ウガンダ) は、LDC 専門家グループ (LEG) の活動について報告した。

バングラデシュはG-77/中国の立場で発言し、NAPAsならびにLDC作業プログラムの全面的な実施を求め、支援と資金の必要性を強調した。ネパール、東チモール、ブルキナファソ、シェラレオネは、LEGのマンドート延長の必要性を強調し、マラウイは、NAPAプロジェクトに関する共同出資要項の廃止を求めた。東チモールは、国内窓口のキャパシティビルディングが必要だと指摘し、NAPAsのレビューと更新の必要性を強調した。

Rence Sore (ソロモン諸島) が非公式に協議する。

**技術移転**：事務局は、本議題項目（FCCC/SBI/2010/INF.4, FCCC/SBI/2010/INF.6, and FCCC/SB/2010/INF.1）を提起した。EGTT副議長のElhassanは、EGTTの最近の作業について報告した。GEFのRawleston Mooreは、技術移転に関するポズナニ戦略計画に関するGEF進捗報告書を提出した。（FCCC/SBI/2010/4）日本は、EGTTと、気候技術イニシアティブなど、民間部門との連携強化の必要性を強調した。米国は、2国間と多国間、条約の内外で行われている努力を歓迎し、気候技術イニシアティブの規模拡大に留意した。オーストラリアは、民間部門の参画強化を推奨した。フィリピンは、EGTTでの作業を歓迎し、EGTTでの作業がバリ行動計画の実施に関する交渉を損なうことがないよう希望すると述べた。

Carlos Fuller（ベリーズ）とRonald Schillemans（オランダ）がSBI/SBSTA合同コンタクトグループの共同議長を務める。

**議定書3.14条（対応措置の悪影響と影響）**：SBI議長のOwen-Jonesは、SBI 31報告書附属書Iに記載する文章に基づき、この問題に関する作業を続けると指摘した。Andrew Ure（オーストラリア）とEduardao Calvo Buendía（ペルー）がこの議題項目および議定書2.3条（政策措置の悪影響）に関するSBI/SBSTA合同コンタクトグループの共同議長を務める。

**遵守に関する議定書の改定**：SBI議長のOwen-Jonesが結論書草案を作成する。

**附属書Bにカザフスタンを含めることに関するカザフスタンの提案**：事務局は本議題項目（FCCC/SBI/2010/6）を提出した。カザフスタンは、排出削減に関する自国の約束を強調し、この努力は柔軟性メカニズムへのアクセスを提供することで報われるべきだと述べた。Mark Berman（カナダ）が非公式に協議する。

**事務管理上、資金上、制度上の問題**：

**2010-11年の2カ年度の予算実績**：UNFCCC事務局長のYvo de Boerはこの議題項目を提出し、2010-2011年の2カ年度の予算実績を報告した。メキシコは、一部の締約国が2010年での約束を遵守していないことへの懸念を表明し、各国に対し自主的な寄付を行うよう求めた。SBI議長が結論書草案を作成する。

**本部協定の実施**：SBI議長が結論書草案を作成する。

**特権と免責**：事務局は本議題項目（SBI/2009/8）を提出した。Tamara Curll（オーストラリア）がコンタクトグループの議長を務める。

**国際取引ログ（ITL）の料金徴収手法**：事務局は本議題項目（FCCC/TP/2010/1 and FCCC/SBI/2010/MISC.4）を提出した。中国は、テクニカルペーパーでの食い違いや省略事項に注意した。Toshiaki Nagata（日本）がコンタクトグループの議長を務める。

**政府間会合のアレンジ**：事務局は本議題項目（FCCC/SBI/2010/8）を提出した。メキシコは、COP 16お

よびCOP/MOP 6に向けた準備状況に焦点を当てた。バングラデシュはG-77/中国の立場で発言し、全ての途上国による有効参加が確保されることを希望した。ボリビアは、包括的で透明性があり、民主的な交渉を強調し、COP 16およびCOP/MOP 6の準備作業では、AWG-LCAとAWG-KPという別々の交渉トラック、マンデート、成果を尊重すべきだと述べた。ツバルは、ハイレベルセグメントを透明性のあるものにすべきだと強調した。スイスは、オブザーバー組織、特に民間部門が関わることに価値があると強調した。フィリピンは、オブザーバー、特にIGOsの参加を規制する規則を恣意的に適用することがあってはならないと強調した。SBI議長のOwen-Jonesがコンタクトグループの議長を務める。

**その他の問題：**ベラルーシは、ベラルーシが京都議定書附属書Bにまだ含まれていないことを嘆き、議定書附属書B に関し採択された改定案が発効する以前に、同国の共同実施プロジェクトをUNFCCCホームページに掲載することへの支援を求め、ロシアもこれを支持した。SBI議長が非公式協議を開催する。

#### 廊下にて

ボン気候変動会議の初日、多数の参加者からは、コペンハーゲン後の「実質的な交渉の長い中断」と呼ばれるが、ここに戻れてHappyだとのコメントが聞かれた。「そうはいつでも、COPやCOP/MOPに対する期待感が今年の今頃よりも実際に下がってきたのか、今年は何だけのことが達成できるのか、はっきりしない」とベテランの交渉担当者はコメントした。

しかし、SBIとSBSTAの開会プレナリーに初日が費やされる中、長期的な問題や二つのAWGsの問題は底流として残っていた。両補助機関は、参加者が「極めて忙しい」と称する議題を抱えている。会議室は混雑し、比較的小さなSBSTAのプレナリー会場は、収容能力一杯の人で膨れ上がり、主要会場で席がとれなかった参加者のため、「オーバースタイルーム」が用意された。この理由は、ボンでの国際会議場の完成が「またしても遅れた」ためである。「昨年8月にマリティームと涙の別れをしたときは、新しい会場に移るものと思っていたが、今度は涙の再会になった」と午前中のプレナリー会合の大半を立ったまま過ごさせられたある参加者は述べた。

会議の内容については、SBSTAでの柔軟性メカニズムに関する会議から出てきた参加者の多くからステートメントの「政治性が増している」とのコメントが聞かれ、一部の国から市場メカニズムへの批判があったほか、CDMでのCCSの扱いや枯渇林地の扱いで「強い」意見対立があったとのコメントが聞かれた。「次はCDMでの標準化ベースラインを議論することになる」と、ある先進国の参加者は指摘し、それを喜んでいるようであった。

夕方、参加者は、Yvo de Boer事務局長の在職記念祝賀会に集まり、ドイツ政府の主催するレセプションで送別会を開催した。笑顔や拍手が見られたほか、思い出を語るものもあり、スピーチや握手、抱擁の中には、



Earth Negotiations Bulletin  
SB32  
<http://www.iisd.ca/climate/SB32>

財団法人 地球産業文化研究所  
<http://www.gispri.or.jp>  
Tel: +81-3-3663-2500 Fax: +81-3-3663-2301

涙も見られた。来週水曜日午後のSBI閉会プレナリーでは、Yvo de Boer氏の回顧話が聞けるものと思われる。

GISPRI 仮訳

---

This issue of the Earth Negotiations Bulletin © <[enb@iisd.org](mailto:enb@iisd.org)> is written and edited by Tomilola "Tomi" Akanle, Asheline Appleton, Kati Kulovesi, Ph.D., Anna Schulz, Matt Sommerville and Simon Wolf. The Digital Editor is Leila Mead. The Editor is Pamela S. Chasek, Ph.D. <[pam@iisd.org](mailto:pam@iisd.org)>. The Director of IISD Reporting Services is Langston James "Kimo" Goree VI <[kimo@iisd.org](mailto:kimo@iisd.org)>. The Sustaining Donors of the Bulletin are the United Kingdom (through the Department for International Development – DFID), the Government of the United States of America (through the Department of State Bureau of Oceans and International Environmental and Scientific Affairs), the Government of Canada (through CIDA), the Danish Ministry of Foreign Affairs, the German Federal Ministry for Economic Cooperation and Development (BMZ), the German Federal Ministry for the Environment, Nature Conservation and Nuclear Safety (BMU), the Netherlands Ministry of Foreign Affairs, the European Commission (DG-ENV), and the Italian Ministry for the Environment, Land and Sea. General Support for the Bulletin during 2010 is provided by the Government of Australia, the Austrian Federal Ministry of Agriculture, Forestry, Environment and Water Management, the Ministry of Environment of Sweden, the New Zealand Ministry of Foreign Affairs and Trade, SWAN International, Swiss Federal Office for the Environment (FOEN), the Finnish Ministry for Foreign Affairs, the Japanese Ministry of Environment (through the Institute for Global Environmental Strategies - IGES), the Japanese Ministry of Economy, Trade and Industry (through the Global Industrial and Social Progress Research Institute - GISPRI), the Government of Iceland, the United Nations Environment Programme (UNEP), and the World Bank. Funding for translation of the Bulletin into French has been provided by the Government of France, the Belgium Walloon Region, the Province of Québec, and the International Organization of the Francophone (OIF and IEPF). Funding for translation of the Bulletin into Spanish has been provided by the Spanish Ministry of the Environment and Rural and Marine Affairs. The opinions expressed in the Bulletin are those of the authors and do not necessarily reflect the views of IISD or other donors. Excerpts from the Bulletin may be used in non-commercial publications with appropriate academic citation. For information on the Bulletin, including requests to provide reporting services, contact the Director of IISD Reporting Services at <[kimo@iisd.org](mailto:kimo@iisd.org)>, +1-646-536-7556 or 300 East 56th St., 11A, New York, New York 10022, USA. The ENB Team at the Bonn Climate Change Talks - May/June 2010 can be contacted by e-mail at <[kati@iisd.org](mailto:kati@iisd.org)>.